

昭島市教育委員会 殿

学校名 昭島市立共成小学校

校長名 森本 弘子 公印

令和7年度教育課程について（届）

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教 育 目 標

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神を基調とし、一人一人の児童の多様な個性・能力を伸ばし、変化するこれからの社会をたくましく・しなやかに生き抜く力を育むため、学校・家庭・地域と連携し、児童が安心して自己実現を目指す教育環境を整え、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指す。

・助け合う子 … 誰かのために自分ができることを考え実行する子

○考える子 … 思いや考えを共有し、学び合い、認め合う子

・きたえる子 … 声を掛け合い一緒に運動し、互いに支え合う子

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 確かな学力の定着を期して、児童が自律的に学びを進め、「学びの実感」を得られる学校を創造する。

(ア) 個の習熟度に応じた指導・評価を一体的に展開し、基礎学力の定着を図るとともに、学習習慣を確立する。

(イ) 児童に必要な資質・能力を明確にし、めあて・見通し・振り返りのある授業を展開する。

(ウ) 主体的・対話的で深い学びの視点に立って、指導内容・方法の工夫、学習過程の改善を推進する。

(エ) デジタル教科書などのICTや学校図書館、「ICT活用マニュアル」に基づく一人1台のタブレット端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を実現する。

(オ) 児童の主体的及び探究的な学習を充実させ、よりよく課題を解決し、自己決定できる資質・能力を育成する。

(カ) 特別な支援を必要とする児童一人一人の状況に応じた、合理的配慮やきめ細やかな支援の一層の充実を図る。

イ 豊かな心の醸成を期して、児童が自他を理解・尊重し、「協働意識」をもてる学校を創造する。

(ア) 教育活動全体を通じた人権教育の推進や体験活動の充実による自己肯定感・自己有用感の育成を図る。

(イ) 学校いじめ防止基本方針に基づく学校いじめ対策委員会を活用し、組織でいじめの未然防止・早期解消を図る。

(ウ) 生命の尊さを学び、生命を大切に考えるや、自分や相手、一人一人を尊重する態度を身に付けるための「生命の安全教育」をはじめとする指導を推進するとともに、安全教育及び防災教育を充実させる。

(エ) 児童がよりよい学校生活を送るために学級満足度調査を活用し、予防・開発的な支援や指導の充実を図る。

(オ) コミュニティ・スクールの仕組みを活用し、教育活動の公開、学校関係者評価の活用、学習支援ボランティアの活用等、保護者・地域の教育活動への参画を促進し、児童の社会の一員としての意識を醸成し、地域と一体となって児童を育む「地域とともにある学校づくり」を推進する。

(カ) 道徳教育と特別活動を要として、人権教育プログラムをもとに、人権感覚を高め、協力し合う喜びを体得する教育活動を展開する。

ウ 健やかな体の育成を目指し、児童が体力向上と健康に関心をもち、「心と体の元気」を感じる学校を創造する。

(ア) 「元気アップガイドブック」やコオーディネーショントレーニング等を活用し、体力の向上に主体的に取り組み、「グッドモーニング60分」等を活用して継続的に健康教育の充実を推進する。

(イ) 体力テスト等の結果を分析・活用し児童の実態を踏まえた指導を展開し、組織的に基礎体力の向上を図る。

(ウ) プラス思考の言葉かけ、心のもち方指導、成功体験の積み重ねにより、しなやかで折れない心を醸成する。

(エ) 組織的な食育の推進と、「アレルギー疾患対応マニュアル」に基づくアレルギー事故防止の徹底を図る。

(オ) がんに関する基本的な知識の習得及び命の大切さや自己の生き方を考えさせるがん教育を推進する。

エ 輝く未来に向かう心の育成を期して、児童が自己決定しながら、「なりたい自分」を目指す学校を創造する。

(ア) キャリア・パスポートの活用による、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の充実を図る。

(イ) 学級活動や児童会活動、実行委員会等で、一人一人が活躍できる場をつくり、自ら課題を見だし、解決方法を実践したり振り返ったりしながら、主体的に学校や学級をよりよくしていこうとする力を育成する。

(ウ) ICTスキルを系統的・計画的に育み、プログラミング教育の推進を図るとともに、情報社会での行動に責任をもち、情報を安全に利用できる力を身に付けさせる情報モラル教育及びデジタルシチズンシップ教育を、教育活動全体で推進していく。

(エ) 学校生活支援シート及び連携型個別指導計画により、障害のある児童のニーズに応じた指導の充実を図る。

(オ) 幼稚園や保育所と連携し、就学時における適切な支援及び、スタートカリキュラムを実施し、円滑な連結を図るとともに、小・中9年間の連続性を意識し指導内容の充実・連携を図る。